

【From Kobe 2015 年 3 月の便り】 2015.3.5. by Mutsu Nakanishi

From Kobe2015

3.

◆ 弥生 3 月 神戸の春便り

◆ ぶつぶつ from Kobe

1. 新聞の紙面作りに疑問符？ 私の新聞感にあわなくなった
2. 造船大国復活うれしいニュース

梅の香りがほのに漂うひかる海
街ではイカナゴのくぎ煮のにおい 神戸の春の到来です



陽光にきらきら光る須磨の海 神戸に春の訪れを告げるイカナゴ漁の船・海苔船そして大型の航行船などが海峡を行く
待ちかねた春 神戸の春の到来 輝く海に 若者がサーフィンポートを漕ぎだしてゆく

須磨海浜公園 & 須磨網敷天満宮で 2015.2.27.



2 月 26 日 神戸に春を告げる「いかなご漁」解禁 街にはくぎ煮のにおいが通りいちめん漂い、
いかなごを求める長い行列ができ 街のあちこちで 釘煮談義の笑顔 一気に街はなやいだ雰囲気
その日のイカナゴの値段と釘煮の炊き方が これから しばらくは街一番の情報交換の話題に
我が家でも早速大きな鍋で 今年の釘煮がスタート 新子の釜揚げ
こっちはコップを準備して「釘煮」と「釜揚げ」が、食卓に並ぶのを待つ
「春が来た」のうれしい一杯

玄関にはお雛様も飾って うれしい春迎え
相も変わらずの 3 月 春迎えですが、
孫たちもすくすく うれしい 3 月の到来です。

2015.3.1. 神戸 by Mutsu Nakanishi



◆ ぶつぶつ from Kobe [1]

1. 新聞の紙面作りの姿勢に疑問符？ 私の新聞感にあわなくなった

20105.2.20. by Mutsu Nakanishi

朝日新聞が従軍慰安婦問題などの誤報問題を起こして以来 政治・報道そして世論から厳しい批判を浴びるようになって以来、紙面がどうもおかしい。もう 限界に。

テレビのニュース番組やスポーツ番組が総芸能化し、NHK までもが、その路線。

情報化社会とは 客観事実情報などくそくらえと云わんばかりの押しつけ情報がメインの社会なのか・・・

誰の目にも あからさまな政治の報道・情報への介入・操作は目を覆う。

それに引き換え 新聞だけは「プロの記者が冷静に事実を記事にし、新聞社の名のもと冷静判断された記事が紙面を飾る。 読者に正確に事実を伝え、読者に判断材料を与えてくれる」。と思ってきたのですが、
どうも そんな新聞への思い入れは過去のものと思える事態になっているのだろうか・・・。

朝日新聞の例でみると

1. 紙面を開くと広告それも全面広告・半面広告の中に記事が埋もれ、しかも広告が記事と見まがうスタイルになっているから始末に悪い。社会面 スポーツ面などページをめくらないと記事が続かない。
「広告などまとめて どけてくれ!!」 読みにくい。
2. 紙面構成が広告に負けてしまったことで、クルクルと紙面構成が変わり、しかも 何らかの理由で記事の数が激減している。 この原因は色々類推されるが 読者には今もって説明はない。
紙面構成が変わらざるを得ないのか・・・
この1月 2月の朝日の三面記事・スポーツ欄のあまりにもひどい紙面構成。記事の作り方。
もう 限界だと。
3. 新聞に読者は何を期待するのか[1]
上記にも書いたが、定期購読者にとって、朝一番と新聞を広げて見るのはなにか・・・
今日一日 いろんなコミュニケーション・行動のため、自分に必要な知識を頭に入れるのが一番。
それは 社会・経済・政治・国際・スポーツ・芸能・教育・地域 等々 どの分野にとっても同じで、意見を聞きたいのでなく、広く抜けのない事実の数々が知りたいのである。
そんな中で 記事の数の激減・スタイルがころころ変わる記事内容や紙面構成は読者にとって致命的だ。
読みにくいことこの上ない。
4. 新聞に読者は何を期待するのか[2]
記事数の激減がどこへ行ったのかというと広告と意見・解説記事 それも外の人を書く記事がほとんどである。
新聞社の長きにわたる報道姿勢を信用し、意見・解説を読む。 でも 最近の署名記事を見るとよく吟味されたというより、現場報道のコメントと同じような安易さ 仲間内??
また、朝日に限って言えば、何か使命感を背負っているといった感じを受ける意見・署名記事があまりにも多く、その分 記事の数 紙面構成を日替わりのムチャクチャなものにしていると。

事実情報と意見両方が必要であるが、その情報がどちらかに偏ったり、混合されては 読者にとって迷うばかりである。新聞社の信用が大きく揺らぐ根幹であろう。

苦しい新聞社経営の中で、批判をさらされる朝日新聞がどうも そんなドツボにはまり込んでいるように見える。
悲壮感ただよう紙面づくりとも読み取れるのですが、「天声人語」など長年親しんできたコラムを失うのは寂しいが、一旦やめて、地域・社会報道の多い地方紙に一度切り替えることにした。

他紙から眺めてみることで 報道が今どんな立場に立たされているのかを眺めてみたいと思っている。

以上 ここ1年私が抱いてきた新聞報道の紙面構成・姿勢に抱いてきたもやもや。 独りよがりや間違いもあると思いますが、私のような目で 今 新聞の報道姿勢を見ている人いるのだろうか…

もうろくしたのかもしれぬと思いながら、でも なあ・・・と。

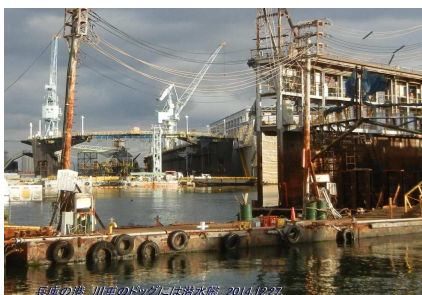
◆ ぶつぶつ from Kobe

2. 造船大国復活のうれしいニュース

重厚長大の技術が見直される時代になれば・・・・・・・・

1 月末国内造船大手の今治造船が 1 6 年ぶりに超大型ドックの新設を発表

6 年 1 0 カ月ぶり 1 月の造船の受注量が韓国・中国を抜いて世界一に



神戸 中小造船の現場が並ぶ兵庫の港の港で 2014. 12. 27.

昨年昨年 12 月末 中小造船ドックが立ち並ぶ兵庫の港境界を歩いていて、現場作業の音が響き渡る中小のドックにドック健在を眼にし、立ち話をした溶接屋のおちゃんからも、

「この境界 仕事が増えて元気だよ」と聞いて、多少懐疑的ながらうれしくなっていました。

そして、2 月末 配信されてきたデジタル新聞記事には下記の文字が躍っていました。

造船大国日本復活を恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

1 月末、国内造船大手の今治造船が 1 6 年ぶりに超大型ドックの新設を発表。

さらに 1 月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き 1 位に返り咲いた。

日本が月間ベースの受注量で 1 位になったのは 2 0 0 8 年 3 月以来 6 年 1 0 カ月ぶりのことだ。

産経ニュース 2015. 2. 26. 【経済インサイド】

「造船大国・日本」復活恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

日本の造船業が復活に向けて動き始めた。1 月末、国内造船大手の今治造船が 1 6 年ぶりに超大型ドックの新設を発表。さらに 1 月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き 1 位に返り咲いた。日本が月間ベースの受注量で 1 位になったのは 2 0 0 8 年 3 月以来 6 年 1 0 カ月ぶりのことだ。「アベノミクス」による円安や造船各社の構造改革によって、受注・コスト競争力が高まり、ここにきて息を吹き返しつつある格好だ。これに警戒しているのが、日本に代わり造船大国になった韓国勢。韓国経済新聞によると、韓国の業界関係者は「円安と技術力、安倍晋三政権の支援を背に、日本企業が中国よりも速いスピードで韓国を追撃している」と述べ、高い技術を誇る日本勢の復活に 戦々恐々としている。



今治造船は島工場で建造されている約 1 万 4 0 0 0 個積みの大型コンテナ船。来年にはさらに大きい 2 万個 積みがつくれる超巨大ドックを新設する

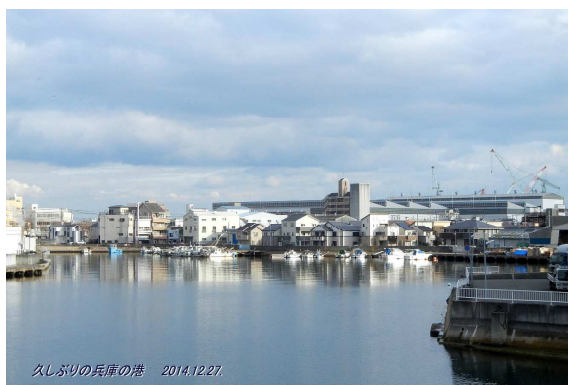
高度成長時代の先端であったが、その後は斜陽の代表とみ向きもされなくなっていた 重厚長大産業。

その物作りの代表日本の造船業が息を吹き返しつつあると聞く。

「長かった造船業が復活の動きは本物なのだ」とうれしい。

物づくりの先端と云えば電子産業や自動車産業。そして 金融や情報など虚業ばかりに眼が行く昨今、厳しい合理化をくぐり抜け、「物づくりの業」を磨いてきた重厚長大の産業。

閉塞感から脱しきれぬ日本。 短期的な視点を乗り越え、新しい突破口に重厚長大の物づくりの視点となればと期待。



<http://www.sankei.com/premium/news/150226/prm1502260003-n1.html>

「造船大国・日本」復活恐れる韓国

台湾から世界最大級コンテナ船受注に焦燥「韓国造船業の牙城崩れる」

日本の造船業が復活に向けて動き始めた。1月末、国内造船大手の今治造船が16年ぶりに超大型ドックの新設を発表。さらに1月の船舶受注量で日本が韓国と中国を抜き1位に返り咲いた。日本が月間ベースの受注量で1位になったのは2008年3月以来6年10カ月ぶりのことだ。

「アベノミクス」による円安や造船各社の構造改革によって、受注・コスト競争力が高まり、ここにきて息を吹き返しつつある格好だ。これに警戒しているのが、日本に代わり造船大国になった韓国勢。韓国経済新聞によると、韓国の業界関係者は「円安と技術力、安倍晋三政権の支援を背に、日本企業が中国よりも速いスピードで韓国を追撃している」と述べ、高い技術を誇る日本勢の復活に戦々恐々として いる。



今治造船広島工場で建造されている約1万4000個積みの大型コンテナ船。来年にはさらに大きい2万個積みが建造できる超巨大ドックを新設する

16年ぶりの超大型ドック新設

今年1月29日、国内外の造船関係者は驚きの声を上げた。今治造船が台湾の海運会社から世界最大級となる約2万個積みの超大型コンテナ船11隻を受注したと発表。

さらに驚かせたのが、この全長約400メートル、幅約59メートルという超大型コンテナ船を建造するため、長さ約600メートル、幅80メートルの大型新造船建造ドック（香川県丸亀市）の新設を決めたからだ。

新ドックは月内にも着工し、2016年10月の完成を目指す。同社にとっては、新設するドックは2000年に完成した西条工場（愛媛県西条市）以来。投資額は約400億円を予定している。

同社の関係者は「超大型船の商談など世界中からの多様なニーズに柔軟に対応できる生産体制が構築できる。国際競争力に磨きをかけ、顧客の期待に応える船造りを目指す」と意欲満々だ。

この新ドック建設に敏感に反応したのが、韓国の造船メーカーだ。

特に今治が2万個積みを超える超大型コンテナ船を受注していることに相当の脅威を感じているようだ。韓国経済新聞によると、これまでウルトラマックス級と呼ばれる約1万8000個積み以上の超大型コンテナ船市場は、現代重工業、サムスン重工業、大宇造船海洋などが事実上独占してきた。しかし、そこに今治造船が割って入ることになる。

韓国経済新聞は、韓国の業界関係者のコメントとして「日本が2万個積みを建造すれば、韓国造船業の牙城が揺れる」と紹介している。中国勢も大型のコンテナ船の建造を多く手がけており、日本の動きを注視しているようだ。

6年10カ月ぶりの「首位返り咲き」

中央日報電子版は、グローバル造船海運市況分析機関である英クラークソンのまとめとして、

1月の世界に占める船舶受注シェアは日本が45.9%、韓国30.9%、中国17.6%だったと報じている。

6年10カ月ぶりに日本が1位になったのは、今治の2万個積みの超大型コンテナ船の大量受注が成長の一因として作用したとした。

そもそも1980年代は日本が世界の造船市場でトップランナーを走っていた。だが、安値受注などで中韓勢が猛烈に追い上げ、追い越した。ただ、熾烈（しれつ）な競争を繰り広げる中、中国や韓国の新興メーカーは生産規模を大幅に拡大。この結果、造船市場は需要をはるかに上回る供給過剰になり、造船会社の採算は悪化した。そんな中、日本の造船メーカーが息を吹き返しつつあるのは、「アベノミクス」による円安で受注競争力が回復したことと、さらに数年にわたる構造調整、いわゆる統廃合でコスト競争力を高めたことが大きい。

もちろん品質が高く、納期をしっかりと守るといった日本企業の優れた面が支持されていることもある。

統廃合で競争力強化

統廃合の動きとしては2013年に、今治造船と三菱重工業がLNG船舶部門を切り離し、LNG船を専門に製造する「MILNGカンパニー」を設立。同年には、アイ・エイチ・アイマリンユナイテッドとユニバーサル造船が合併し、世界4位となるジャパンマリンユナイテッド（JMU）が誕生した。

さらに、昨年10月には、名村造船所が佐世保重工業を子会社化し、国内ではJMUに次ぐ規模になった。三菱重工業は、戦艦「武蔵」を建造した長崎造船所で手掛ける造船事業を、今年10月1日付で分社すると発表。

LNG船などを建造する全額出資会社と、船の部品となる船体ブロックを製造する事業会社を設立することを決めた。

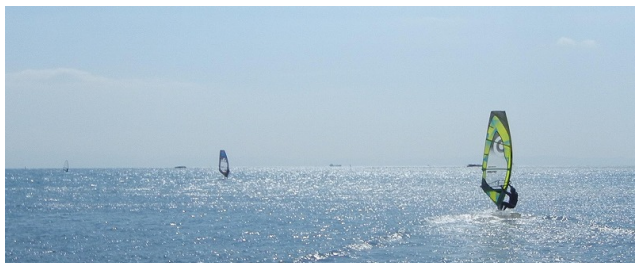
こうした再編やコスト改善に向けた改革に加え、「円安で15%は（日本船の）船価が下がった」（市場関係者）ことも加わり、急速に競争力を高めている格好だ。このため、とくに液化天然ガス（LNG）船や超大型コンテナ船など高付加価値分野で日本と直接競合することになる韓国勢は焦りを隠せないでいるわけだ。

これまで、海外勢に差をつけられてきた日本勢だが、今治造船の大型ドック建設を機に、他の国内メーカーも追随するような動きが出てくれば、いよいよ韓国勢には脅威となる。

中央日報電子版によると、サムスン重工の関係者は「日本の造船業の最も大きな弱点は中小型の造船所が多く、今まで建造した船舶の最大サイズが（コンテナ船の場合）1万4000個積みだった」とした上で「超大型ドックの建設で2万個積の建造までが可能になれば、いつでも韓国に追いつく可能性がある」と、かつての「造船大国日本」の復活に神経をとがらせている。

インターネット 産経ニュース 経済インサイド 2015. 2. 26. より

<http://www.sankei.com/premium/news/150226/prm1502260003-n1.html>



神戸に春を告げる いかなご漁 解禁 2015.2.26.

